

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お 題

応仁の乱以降の地方の文化に 武士が果たした役割とは？

(東京大学 2014年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

次の文章を読み、応仁の乱以降に京都の文化が地方に伝わっていく際に武士が果たした役割について、説明しなさい。

(1) 応仁の乱以前、よほど遠い場合を除き、守護は京都に滞在することが多かった。しかし応仁の乱以降は、主に京都に滞在する守護は細川氏だけとなった。

(2) 応仁の乱以前に活躍したある武士は、京都に住み、五山の僧や中下級の公家と交流するとともに、立花の名手池坊専慶を援助していた。

(3) 応仁の乱以前に京都で活躍した連歌の名手には、山名氏の家臣など3人の武士が含まれていた。

(4) 応仁の乱以降、宗祇は、朝倉氏の越前一乗谷、上杉氏の越後府中、大内氏の周防山口などを訪れ、連歌の指導や古典の講義を行った。



イラスト：瑞木匠

冬の空...
瑠璃光寺...
五重塔...

京文化担い

応仁の乱とは、室町幕府の将軍の跡継ぎ争いに幕府内の権力争いが絡まって起きた戦乱です。主に京都を戦場とした応仁の乱自体は10年ほどで終結するのですが、連鎖的に各地で起きた戦乱を弱体化した幕府は治めることができず、幕府の体制は崩壊し、世の中は戦国時代へと進んでいきます。室町時代から戦国時代へ移り変わるこの時期に、文化ではどのような動きがあったのか、見ていきましょう。

京都にいた守護が各地へ

(1) を読むと、応仁の乱の前後で守護の動きが変わったことがわかります。守護とは、幕

府から任命されて各国の治安維持や武士の統率を行った、武士の役職名です。室町時代になり、各国の治安が安定すると、守護は自分の担当の国ではなく、幕府のある京都に主に滞在し、幕府の仕事を手伝うようになっていました。ところが、応仁の乱の影響で各地で戦乱が起きようになると、守護も自国を治めるために、各国に戻っていったのです。

京都の文化と武士のかかわり

(2) (3) には、応仁の乱以前の武士の様子が書かれています。立花とは生け花の古い様

式のこと、連歌とは和歌を使った文芸のことです。いずれも室町時代に楽しまれた文化です。こうした文化は、それまでは天皇家や公家と呼ばれた貴族たちの間で楽しまれていましたが、室町時代にはそれらの人々に交じって、京都に滞在中の武士たちも楽しんでいただけがわかります。

(4) に登場する宗祇は、当時最高ともいわれた連歌師です。もともと京都で活躍していた宗祇は、後半生には各地を旅するようになり、各地の武士を訪問したのです。応仁の乱で京都が荒廃すると、このように地方の武士を頼って下る京都の文化人も多くありました。

このように、京都滞在中に京都の文化に親しんだ武士たちが、応仁の乱以降自国に戻った際に京都の文化を自国に広める役割を果たしたのです。とくに、中国との貿易で栄えていた大内氏が治めた町である山口には、たくさんの文化人が集まり、進んだ文化が生まれました。

【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

このころに武士がつくった町の中の一つかは、現在も「小京都」として親しまれています。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。